

偶 感

運営委員長 榎場 重正

昨年4月から規定により、計算機センター運営委員長の役をお引受けして、始めて計算機センターの内容についていろいろと見聞させて頂きました。

振返ってみますと委員の方々は実に熱心で、センターの発展に一生懸命で、センターが現在のように容量が一杯になっているにも拘らず、支障なく稼動していることはセンターの職員の方々は勿論、委員の方々のご努力の賜物と思います。

しかし計算機の現状は昨年より特に使用量が急激に増加し、最盛期は1日22時間近い稼動時間となり、今年は更に情報処理教育の拡充、データベースの開発、蓄積の増加などにより、容量的にも不足してくるものと思われます。

勿論、本センターは歴代のセンター長、運営委員長、関係委員の方々により、総合情報処理センターとしての省令化を目指して、ここ数年努力を重ねてこられました。社会を取り巻く情勢は臨調答申、財政の引締めと極めて厳しい状態にあり、近い時期での省令化はかなり困難と思われます。

しかし先にも述べたように現状で皆様方の要望に充分に応えるには、ともかく大型化が先決と思われます。

私自身、運営委員長をつとめ乍らセンターを利用することは殆んどなく、細かなことには全く素人ですが、現代における科学の進歩、複雑多岐にわたる情報の氾濫に対処するには欠くことのできないものと思われます。しかし一方、計算機への過信から思わぬ失敗もあることは否めない事実であり、その失敗が対象が一部では人間の能力を超えたものであり、巾広い大きな事象であるだけに予想以上に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

今年の卒業生にも話したことですが、計算機を含めて、エレクトロニクス発展による社会のあらゆる部門における合理化、自動化が次第に人間の心を失ってしまうのではないかと恐れるものであります。

いつかテレビで将来の人間像としてE. T. のような人間像を見せられ、ふと感じたことですが、昔の道具から構造物に至るまで、現代人が如何に計算機を使い、手足を動かしても追い付くことが出来ない物があることを思うとき、昔話しの孫悟空がお釈迦さまの手のひらを飛び出せなかったことを思い出しました。月へ、宇宙へ飛び出しても、原子力を利用する時代になっても、人間の本質はそれほど進んでおらず、かえって一部では退化して行くように思われ、何か寒々としたものを感じ、あらゆる方面で前へ前へと進んでいる時代に、非常に難しいこととは思いますが、少しでも振返って見る余裕をもち人間らしさだけではなくしたくないと思われます。